大学生における口腔の補助的清掃用具の使用促進の動機づけに効果的なインセンティブの探索

○尼崎光洋（愛知大学地域政策学部）・煙山千尋（岐阜聖徳学園大学教育学部）

キーワード：補助的清掃用具，大学生，インセンティブ

目　的

大学生の補助的清掃用具の使用率が低率であることが報告されている（尼崎他，2014；中村他，2012）。口腔の健康を保つためにも，歯ブラシと補助的清掃用具を併用することが，歯垢の除去率の観点からも勧められている（荒川他，2014）。2010 年国民健康栄養調査によると，大学生も含まれる年代の 20―29 歳の歯ブラシの使用率が 98.9%であるのに対して，補助的清掃用具である歯間ブラシの使用率は 5.2%, デンタルフロスの使用率は 9.6%であり，他の世代と比較しても低率であり，補助的清掃用具使用の促進が必要である。

健康行動を促進する手段の 1 つとして，インセンティブ（誘因）の活用が進められている。インセンティブは「行動が生起するための必要な外的条件」とされ，県や市区町村で行われている健康マイレージ事業で発行されるマイレージがインセンティブとなり，運動などの健康行動の促進に一役買っている。しかしながら，大学生の補助的清掃用具の使用を促進させる効果的なインセンティブを明らかにした研究報告は見当たらず，今後，大学生の補助的清掃用具の促進を考える上で，インセンティブを検討することは有益だと考えられる。

そこで，本研究の目的は，大学生における補助的清掃用具の使用行動を特に必要と考えていない前熟考期の使用促進の動機づけに効果的なインセンティブを検討した。

方　法

2017 年 9―12 月にかけて 18―22 歳大学生 416 名を対象に横断調査を行い，補助的清掃用具の使用行動のステージが前熟考期（6 ヶ月以内に行動を変えるつもりがない）であった大学生 186 名（男性 127 名，女性 59 名，平均 18.67 歳，*SD* = .576）を分析対象とした。

調査内容は，基本属性（性別，年齢等），補助的清掃用具（デンタルフロス，歯間ブラシ）の 1 日あたりの使用回数，補助的清掃用具の使用行動の変容ステージ，補助的清掃用具の使用に対するインセンティブ 14 項目，インセンティブとして希望する金額，インセンティブを獲得するまでに費やす期間であった。補助的清掃用具の使用に対するインセンティブの 14 項目は，大学生 69 名を対象に予備調査を行い，項目を収集した。補助的清掃用具の使用に対するインセンティブの回答方法は，松下他（2017）に倣い 11 件法の動機強化得点（0：全く強くならない―10：絶対に強くなる）を用い，得点が高いほど補助的清掃用具の使用に対する動機づけが高くなるとした。なお，本研究は，愛知大学の倫理審査委員会の承認を受けて実施された。

分析方法は，補助的清掃用具の使用に対するインセンティブ 14 項目に対して，対応サンプルによる Friedman 検定を行った。

結　果　と　考　察

前熟考期である大学生の補助的清掃用具であるデンタルフロスの 1 日あたりの使用回数の平均は，0 回であり，歯間ブラシは，.07 回（*SD* = .39）であった。先行研究（尼崎他，2014；中村他，2012）の補助的清掃用具の使用率が低率である状況と同じように，本分析対象者の前熟考期の大学生では補助的清掃用具の使用が全く行われていないことが示された。歯ブラシだけでは歯間部隣接面の歯垢を完全に除去することができず，口腔内の清掃が不十分のままだと，歯の喪失の 2 大原因であるう蝕や歯周病に罹患する可能性が高まり，将来、健康を損なう恐れがある。大学で健康教育の一環として口腔衛生について学ぶ機会を提供することが必要だと考えられる。

大学生の補助的清掃用具の使用に対する動機づけを高めるインセンティブの各項目の動機強化得点の平均値は，「現金」9.22 点（*SD* = 1.88），「旅行券」7.09 点（*SD* = 3.43），「amazon ギフト券」6.95 点（*SD* = 3.45），「iTunes カード」6.73 点（*SD* = 3.55），「図書カード」6.71 点（*SD* = 3.26），「クオカード」6.42 点（*SD* = 3.43），「お食事券」6.30 点（*SD* = 3.41），「電子マネー」6.11 点（*SD* = 3.66），「Google Play ギフトカード」4.43 点（*SD* = 3.81），「文具券」4.36 点（*SD* = 3.25），「ポイント（各社）」4.24 点（*SD* = 3.46），「お菓子」3.86 点（*SD* = 3.36），「寄付」3.74 点（*SD* = 3.18），「口腔ケア用品」3.38 点（*SD* = 3.09）であった。また，前熟考期の大学生が補助的清掃用具の使用を動機づけられるインセンティブを明らかにするために，インセンティブ 14 項目に対して，対応サンプルによる Friedman 検定を行った。その結果，現金が最も高い動機づけを促進する要因であることが示された（検定統計量 = 785.278，*df* = 13，*p* <.001）。インセンティブとしての現金に対する希望平均金額は，5684.35 円（*SD* = 3817.32）であった。また，インセンティブを獲得するまでに費やす期間は，平均 130.49 日（*SD* = 104.58）であった。補助的清掃用具の使用に対する準備性が最も低い大学生にとって，現金のように，口腔ケア以外にも利用することが可能であるインセンティブが最も動機づけられる要因であった。例えば，インセンティブが高額なほど，運動プログラムへの参加に対して動機づけられる効果が高いとの報告があり（Ciles et al., 2014; Farooqui et al., 2014），前熟考期の大学生にとって，現金のような効果的なインセンティブを付与することも必要なのかもしれない。

利益相反開示：発表に関連し，開示すべきものなし。

(AMAZAKI Mitsuhiro, KEMURIYAMA Chihiro)